



老いを共に分かちあおう

「ボランティア福祉バンクを育てよう」

九月は「老人福祉月間」でした。そして今、季節は秋、冬支度をしようとしています。人生の老後が冬にならないように、もう少し自分の身近に引きよせて考えてみませんか。広報等でご存じの方も多いかと思いますが「大館市ボランティア福祉バンク」準備会の成田ケイさん、斎藤定子さんにお話を伺いました。

他このつながりで みんなの幸せを

発足のきっかけは、働きながら実母をお世話した成田さんが「女性の老後を語る会」という話し合いの場を持ったことでした。



▶右から斎藤さん、成田さん、山石レポーター

広報市民レポーター 山石勝子(東台)

「ボトン」と投げられた波紋が広がり、現在、六十人の会員がいます。家族だけで支えあつて来た、親を世話するということが、家族構成の変化の中で、家庭の中だけでとどめられなくなった時、ちよつと手を貸してくれる人がいたら……。そんな思いをしている方もあるのではないのでしょうか。福祉施設やヘルパー、家政婦の方にお世話になる前の手助けとして、働く女性がふえた現在、家族の世話のために、二者択一を迫られることなく、両立して暮らして行ける、そんな手立てもあつていいのではないのでしょうか。老いの身にとって、孤独と病氣は重い課題です。病は専門家の手にゆだねるとして、お茶の相手や趣味の共有、身の回りの手助け等、相手がいることで張り合いが出ます。

これは誰もが知っていることです。なにもかも自分一人で背負いこむことはないのではないのでしょうか。ちよつと人の手を借りる。そんな軽い気持ちでボランティアの方に声をかけてみてください。会員は、あくまで介助者であり、介護者ではないので、既存のヘルパーの方たちとは違います。誰かに必要とされる幸せ、人のために何かをする喜び、会員の皆さんはそれを知っている方たちです。ボランティアとは自他共に豊かになることだと思えます。

行政との

かわりの中で

行政の行き届かない部分をカバーするのがボランティア福祉バンクです。とはいえ、本格的な活動のためにはどうしても行政の援助の裏付けを必要としています。画一化されない、一人ひとりのお年寄りにあつた協力者として、この活動を行政でも物心共に長い目で応援してほしいものです。福祉バンクの運営は、現在会員

が負担する会員費と、賛助費(趣旨に賛同するが、労力の提供が難しい方の寄付金)で賄われており、サービスを受ける方は無償となっています。そして来年四月正式発足後は、福祉バンクのサービスを受ける方には会の運営費程度を負担してもらい、あとは行政に協力を要請する方法で運営されます。市民全体を大きな家族と見なし、みんなが少しずつ力を出し合う、そんな豊かな街づくりへの歩みでもあるのです。

急がず、ゆつたりと流れる長木川のように、大地にしみいるように育ってほしいと思います。

個の確立と

心の自立を

老いは突然訪れるものではありません。誰もが老いていきます。しかし、無駄に年を重ねない努力が必要だと思うのです。前回の国勢調査より六十五歳以上の単身世帯が五二%も増えています。在宅老人の介護者の三分の一は

六十歳以上を占めている今、介護者自身もいつ逆の立場になるかわかりません。高齢化社会の進む中で、シルバー産業は年々巨大化しており、それにふりまわされて自分を見失ってはいけません。元気なうちはゲートボール、サークル活動もいでしょう。でも確実に一人きりになる時が来るのです。

そのために、身内という枠からはなれ、もつと他とのつながりを深め、終生つき合える友人を持つことが必要ではないでしょうか。とかく、閉鎖的になりがちな老いてからの生活を、積極的に社会参加することによって、豊かな人間性が養われることでしょう。そのために、福祉バンクが婦人の域にとどまらず、すべての人を組みこんだよりよい老後を迎えるための準備と学ぶ場として広がって欲しいと思います。みんなで老後の問題を今こそしっかりと考えてみる時期ではないでしょうか。

ボランティア福祉バンクは

- ◆お手伝い出来る内容
食事の世話、通院介助、掃除、洗濯、看護手伝い、身の回りの世話、買物、留守番、代筆、朗読、点訳など
- ◆サービスの申し込みや問い合わせは、次の会員(受付時間は午後7時から9時まで)が民生委員へ。

- ・ 兎沢君子さん (☎46-2294)
- ・ 成田ケイさん (☎42-1309)

◆「広報市民レポーターだより」は、6人のレポーターが独自に取材した記事を掲載しています。